

令和4年度 第1回 福井警察署協議会 開催結果

1 日時

令和4年5月18日（水）午前10時00分から

2 場所

福井県自治会館

3 出席者

- 協議会委員 9名
- 福井警察署 署長以下8名

4 内容

- (1) 協議会会長挨拶
- (2) 福井警察署長挨拶
- (3) 自己紹介
- (4) 業務報告

ア 組織体制

- 署員数等

イ 管内概況

- 治安情勢

(ア) 刑法犯の認知・検挙件数

(イ) 交通事故発生状況

ウ 課題と対策

(ア) 人身安全関連事案対策

(イ) 特殊詐欺対策

(ウ) 重要突発事案への対応

(エ) 選挙違反等の知能犯取締り

(オ) 交通事故抑止対策

(カ) 犯罪情勢に応じた情報提供・防犯指導

(キ) 大規模災害対策の推進

(ク) 警衛・警護対策の推進

(5) 質疑応答

【委員】

オブジェという新しいシステムについて、どのような場面で使われているのか。高齢者のみに対してのものなのか。

【警察】

物損事故を起こした高齢者を中心に実施して、大きな事故になる前に、自分の運動機能の低下等を自覚していただくと考えている。また、高齢者の交通安全教室やサロンで、要望があれば、公民館等を発着



点としてコース決めて一周し、診断をしていこうと考えている。

【委員】

特殊詐欺について、サポート詐欺が増えてきていることなどから、サイバー対策が必要になってくると思うが、サイバー犯罪に対応する署員はいるのか、また、サイバーに対応する若手を育成している実績があるのか。

【警察】

本部では、今年サイバー犯罪対策課という課を新設し取り組んでおり、また、以前から各警察署にもサイバー捜査官、サイバー担当の捜査員も配置されている。若手の育成については、サイバー指導員等を指定し、その者を通じて、若手の警察官等を教養する取組をしている。

サイバー犯罪というのは、日々巧妙化しており、その手口を常に勉強していく必要があることから、新しい手口の教養、対策も行っている。

【委員】

日々新しい手口が増えているとのことなので、新たな手口があれば教えていただきたい。

【委員】

治安情勢の中で、刑法犯の認知件数と検挙件数があり、その数に差があるが、それは、認知はしているけど検挙には至らないということか。

【警察】

そのとおりである。

認知件数とは、警察において発生を認知した事件の件数であり、検挙件数とは、警察が検挙した事件の件数である。

【委員】

まつもと安全マップを松本地区で配ってもらったが、他の地区でも配っているのか。

【警察】

各地区において独自で作成しているもので、各地区から警察に対して助言や情報提供を求めてきた場合、提供できる範囲で情報を提供し作成している。